

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100198		
法人名	社会福祉法人寿量会		
事業所名	グループホーム虹の家		
所在地	熊本市奥古閑町4296-1		
自己評価作成日	平成23年12月25日	評価結果市町村受理日	平成24年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	//search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4390100198&SC
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成24年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○生活について…片付けや掃除など自分達で出来ること(食器洗い、食器拭き、洗濯物たたみ、雑巾掛け、台拭き、クリスマス等行事の飾り付け、裁縫、手紙書き…等)をしながらの生活です。また、地域の方と一緒に環境を考えた生活を継続しています。(生ゴミを堆肥にしたり、洗剤を使わずにEM液を使っています)○環境について…部屋はゆっくり出来る広さが取れています。また、部屋以外に廊下の空間にセミパブリックスペースを設け、数人の仲間と話したり、本を読んだり、自由に過ごせる生活が守られています。リビングの和室や台所では、片付けや洗濯たたみ、食事の汁物づくり、具材の切り込み等、家事を皆で協力し、生活を身近に感じて頂ける環境があります。○地域交流について…地域活動として前年度より子供達と一緒にお菓子作りやパンフラワーで干支作りをしています。きっかけを作ることで、立ち寄りやすい雰囲気と感じて頂けた様子です。家の前が通学路のため、暖かい時期には、朝の挨拶や帰りの子供達を見送っています。また、自分達で作った野菜を母体の市場に出したりと地域と繋がりを持っています。地域の行事(どんどや、消防訓練、いきいきサロン…等)にも参加して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「認知症の人と家族の会」熊本事務局の活動や、「認知症実務者研修」等への協力など、熊本県下の当事者・家族への支援と介護職者のスキル向上に、法人全体で取り組んでおり、ホームも活動に関わる中で、認知症介護の最先端の知識や技術に触れ、職員の意識向上が図られている。法人内部の研修機会が多く、また、外部研修の参加も積極的に勧めて、職員育成に努めており、職員からは、介護の仕事にやりがいを感じ、資格取得や技能向上に意欲的な声が聞かれた。代表者・管理者・職員は信頼関係で結ばれ、運営から個別ケアの細かな内容まで全職員で話し合い、アイデアを出し合って、最善の入居者・家族支援と地域貢献に尽力していることが感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもとで時間にとらわれずにご入居者の方としっかり関わることで、いつまでもその人らしい暮らしが継続できるように支援することを目指しています。毎月1.11.23日にはご入居者のペースで生活ができていますか職員間で仕事を振り返る時間を作っています。	「自由と自立、共生と共育」を理念に掲げ、家族や地域との関係継続と、その人らしい暮らしの実現に向けた熱心な取り組みが見られた。入居者と親密な関係を築きながらも、狎れあいのケアになってはいけなと、毎月1日と11日は、全職員お揃いのTシャツを着用して心を引き締め、自己を振り返る日と決めている。ケアカンファレンスでも、理念を意識したケアの見直しが行われており、全職員が理念を理解し、その実践に努めていることが伺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家の前が通学路のため、暖かい日は朝や帰りの子供達の様子を見守ったりしています。また、自分達で作った野菜を母体の市場に出して地域と繋がりを持っている、地域の美容室やスーパーも利用。ご近所から野菜を頂いたりして地域の方との顔なじみのお付き合いをしています。	近くの美容室や郵便局・商店へ、日常的に入居者と出向き、馴染みの関係が作られている。地域行事に参加することが多く、併設の特養・デイサービスの利用者との交流機会も多々見られた。また、地域の子ども達を招いてのお菓子作り教室や、パンフラワー教室を開催するなど、学童から社会人まで、種々の見学・研修にホームを開放しており、多くの訪問者があり、活発な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居の相談や見学をいつでも受け、今、困っておられる事についてはグループ全体で考えるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2ヶ月。ご入居者の普段の様子や参加行事・疾病等を資料にまとめて、生活の様子を報告している。地域の方より“社協だより”や地域のイベント情報が記載された広報誌を頂き、その広報誌を通してご入居者にも地域の活動を知って頂くように活用しています。また、地域の方より地域の行事を伺い、ご入居者と一緒出来るだけ出向くよう心掛けています。	運営推進会議には、自治会や老人クラブ、民生委員、社協、地域包括支援センター、ボランティア、家族等の参加が得られている。会議では、入居者の生活状況や対外的な活動状況を報告し、ホームへの理解を促すと共に、時には「感染症対策」等の勉強会も実施されている。また、地域行事や地域独特の「遊び」の方法など、参加者からの様々な情報や提案は、外出支援やレクリエーション活動に活用されている。	毎回、全家族に会議への参加依頼を郵送しているが、参加する家族は少ない状況にある。全ての家族が年に1度は参加されるように、呼び掛け等工夫されると、更に良いと考える。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に介護相談支援員の方の訪問を受けて、ご入居者の思いを聞いて頂き、ケアの中に活かしております。行政の取り組みや制度の話の伺い、情報として取り入れています。	月に1回、市の介護相談支援員が訪問し、入居者の声を聴き取り、要望等をホームに伝達しており、外出希望や食べたい物などの要望に対し、速やかな対応が見られた。支援員の訪問を受けている事業所と、市職員が集う会議が年1回開催され、相互の情報交換を行い、市と事業所との協力関係作りが図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人グループ全体で身体拘束をしないケアに取り組んでおります。また、身体拘束の勉強会を行うことで職員全員が拘束の内容の理解をしています。本人の思いを、その時に叶えるケアを心掛けています。	点滴治療が必要な入居者は、リビング隣の和室で注意深く見守られ、抜針や点滴漏れを防止。ベッドから一人で降りようとして転倒事故を起こしやすい人には、ベッドを使用せず、床にマットを敷いて転倒防止を図っている。外出したがる人には制止せず、職員同士が連携して見守り、自由に行動してもらおうなどの工夫で、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行っております。職員は委員が虐待防止への理解はありません。ケアを一人で悩まずに皆で話し合って解決する職場環境にも努めております。また、意見を言いやすい環境を整えるよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名のご入居者の方が利用されております。職員間では制度について勉強会を行い内容の理解を深めております。利用されているご本人も認知症は認知症があらわれるため、毎回、熊本市社会協議会より訪問頂く際は、職員から説明し理解を頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかり説明を行っています。また、何か疑問点やご不明なことがないかについては、面会時や随時の電話連絡にて確認して頂くようお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者やご家族の希望に関しては、思いを叶えるように皆で方法を考えます。今まで苦情はあっていないが苦情申出窓口を設置して、苦情などを外部へ表せる体制を整えています。ご家族に安心して頂けるように、毎月(15日)、写真や手紙で生活の様子を知らせております。	毎月の便りに加え、表情豊かな写真を同封して暮らしぶりを伝え、家族の不安除去を図っている。家族の訪問時は温かく迎え入れ、コミュニケーションに努めており、家族アンケートでも「訪問しやすい」「話をよく聞いてくれる」「要望に対応してくれる」と、全家族が回答している。家族との信頼関係が築かれており、意見を言い出しやすい雰囲気を作られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と一緒にご入居者のケアや季節の行事など悩んだり、考えたりしています。職員から意見を言いやすい環境(外で食事をしたり)を作って聞く機会を作っております。話しにくい内容に関しては母体施設の役職者に相談できる体制が整っています。	毎日の申し送りやカンファレンスで意見を述べる機会があり、行事やケア内容等に職員の意見が反映されている。毎月、法人全体の職員会議もあり、意見交換や研究発表が行われている。管理者は職員の意見を引き出し、ホーム運営に活用しており、希望に沿った勤務体制や研修参加などで、意欲の向上を図り、働きやすい職場環境としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境を目指しております。職員各自の夜勤の回数を確認して、勤務体制に無理がないかを聞き取っています。また、体調を崩した時は気兼ねなく療養できる様に職員全体でフォローします。ご家族の感謝の言葉伝えたり、仕事の大切さ、ご利用者の思いを話して、職員のやりがいに繋げています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の職員研修で認知症や感染症・介護・地域について学んでいます。また、グループホーム内でも再度、認知症や感染・拘束など色々と勉強する機会を作ったり、普段のケアの中で対策や方法の話し合いを進めています。介護経験が浅い職員に対しては、別に相談、話し合う機会を設けて、不安がある面のフォローを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市のブロック連絡会議に出席して、同業者の方と交流の機会を持つことが出来ます。会議で得た情報を職員に伝えて、必要と思う時は勉強会を設けて、ケアの悩みや行動障害の対策方法など学び知識を向上させる良い機会となっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にご本人・ご家族と会い情報収集やグループホームについてご理解を頂くようにしています。また、担当ケアマネジャーや今までご利用されている事業者からも、ご本人の身体・精神状態や好きな食べ物・嫌いなもの・趣味など情報収集を行い、ご本人にとってグループホームでの生活が安心できる環境なるよう準備しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前に訪問したり、ホームに見学に来て頂き、実際に使用する部屋や雰囲気を見て頂いています。準備するものやご家族の不安なこと・要望等を聞き、ご家族の思いがケアの中で活かせるように準備しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けても直ぐに入居が困難のため、現在の状況やサービスの利用状況を確認して担当のケアマネジャーと一緒に今後について検討しています。また、担当のケアマネジャーがいない場合は、居宅支援事業所に繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	汁物づくりや掃除、食器の後片付けを一緒にしたり、また、地域の祭事を教えてもらい、一緒に行くなど支え合う関係が出来ています。利用者同士も出来ない所を他の仲間が手助けする関係が自然と出来ています。一緒に笑い・楽しみ・泣いたり家族の様な関係は築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何でも職員がしてしまうのではなく、ご家族にも役割を持って頂いています。一緒に受診を行い、家の行事(法事や餅つき)には、家でご本人が活躍できる環境があります。また、面会時にはご家族でゆっくり出来る環境・時間を大事にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用していた美容室や店・病院を利用する等、これまで大切にされてきたことや場所(お寺の参拝)を途切れないようにサポートして、その場所で馴染みの方と会って話しをしたりと、今までの生活が継続できる支援をしています。	ホーム便りに個別の写真を添えたり、訪問時や電話での近況報告をするなど、家族に入居者の様子を頻繁に伝え、関心が薄れないように努めている。家族の訪問が頻回に見られ、遠方の家族は数日居室に泊まって絆を深める対応も図られている。訪問者とゆっくり過ごせるように配慮し、訪問しやすい雰囲気を作られ、友人・知人の来訪も多く見られた。行きつけの美容室への送迎や、墓参りやお寺参りの支援など、これまでの慣習を継続する個別支援にも、熱心に取り組んでいることが伺えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の個々の生活を大事にしながら、食事やお茶などみんなでゆっくりする時間を作っています。仲間の食器を流しに運んだり、掃除や片付けなど出来る方が手伝われる。仲間同士で自然と「ありがとう」と感謝の言葉が掛け合う関係となっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居されてもご家族と連絡を取りながら身体状況を確認しています。ご家族の希望を把握して同法人の特別養護老人ホームご入居への相談・手続きをサポートしています。ご入居後もご利用者と面会に行ったり、ご家族の相談に乗ったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望には、出来るだけその時に思いを叶えるようにしています。行事への参加もご本人が頑なに拒否される時は、無理強ひなく対応しております。困難な場合は、ご家族から情報を聞いてご本人の思いに沿うように努めています。	「買い物したい」「帰りたい」等、暮らしの中でふと漏れる言葉から気持ちを汲み取り、買い物に出かけたり、家族に連絡を取るなどの対応が行われている。思いを直接言葉に表せない人には、会話の中で息子の名前が出る時は「帰りたい」のサイン、そわそわしている時は「空腹」のサインなど、利用者一人ひとりの表情や行動の癖を踏まえて、思いを察知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生活されていた場所・環境を確認し、暮らし方についてはご家族や普段の会話から情報を集めています。ご本人の興味ある物を目に付くように準備してご入居者の生活を見守っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の出来ない事ではなく「出来る事」「出来そうな事」を視点に職員全員でその方のことを考えケアプランに活かしています。「出来る事」がいつまでも継続できるようにご本人のペースで生活を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスへのご家族の参加は中々出来ないが、面会時や随時の電話連絡にて意向の確認を行っています。ご入居者の「出来る事」「出来そうな事」をケアプランに盛り込み、ご本人の力を活かした自立支援が出来るようなケアを目指しています。	管理者・介護支援専門員を主体に、全職員で話し合い、アセスメント・介護計画作成が実施されている。利用者に変化が見られると、翌日には検討会議を開き、計画を見直すなど、迅速な対応が見られた。日々家族の要望を聴き取り、計画の説明を行っており、本人・家族・職員の意見が反映された計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はご入居者の生活の様子が分かるように「出来た」「出来なかった」ではなく、困っている様子やその時のご入居者の言動などが分かるようにしています。申し送りや連絡ノート等で情報の共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の理念の中にその人らしい暮らしの支援を目指すとあります。ご本人やご家族のニーズがある事は職員にとって嬉しいことです。職員はニーズを叶えるための方法を考え全力で支援していきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動が困難なご入居者の方には地元の美容室の方に訪問散髪に来て頂いています。地域の祭りやコンサート・花見などの外出の際は地域のボランティアの方の協力を得ながら暮らしの支援をしている。また、地域の環境グループの協力で環境を考えた生活を送っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居前のかかりつけ医を継続している。グループホームに主治医の往診に来てもらい自宅にいた時と同じような対応が来ています。また、受診はご家族と職員で協力しながら対応。受診や往診に関することで日頃の様子が説明できています。急変時は母体法人のクリニックで対応できる体制が出来ています。	かかりつけ医への受診は、家族と共に職員も同行し、医師との情報交換を行い、協力関係を築いている。病状によっては、往診に応じることがあり、本人・家族の大きな安心となっている。急変時には、隣接の協力病院や、母体特養の看護師の応援が得られる体制が作られており、家族からは「迅速で細やかな対応に感謝」との声が聞かれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自分で体調の異常を訴えられない為、バイタルチェックを行い普段の状態を観察しています。また、母体の看護職と連携を行い、看護師は24時間連絡体制で、急変時に対応できる様にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に対しては普段の生活の様子を医療機関へ情報を提供します。また、入院中に職員が食事時間に合わせて面会を行い食事面のフォローをしたり、時にはご入居者と一緒に顔を見せたりしています。頻回に合う事で状態も把握でき、また、医師やご家族との連携も図れます。退院後の生活がスムーズに運べる様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	母体の看護師や同法人の病院の医師へ24時間連絡できる体制がと取り、体調管理に努めています。契約時の段階で医療体制について説明します。体調変化の際はその都度、ご家族に状態を連絡します。普段から連絡を取り合うことでホームの中で病気のご入居者の対応を理解して頂いています。	これまでに1名の看取りを経験。本人・家族・医師と何度も話し合い、延命医療は行わないという意向に沿って、出来る限りの支援が行われていた。医療行為を必要とする場合は、ホームでの対応は困難であるが、終末期や重度化した場合にも、可能な限り本人・家族の希望に沿う支援を行いたいと考えており、家族説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法や予想できる急変(誤嚥・止血方法・骨折・火傷)などについて応急処置の方法について勉強会を行なっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを各部屋に設置して安心できる環境を整備しています。また、夜間帯・昼間を想定しての避難訓練や防災についての勉強会を行なっています。地域の協力体制については、ホームの両隣に関しては訪問した際に協力の声かけを行なっています。また、非常通報装置の設置で隣接する特別養護老人ホームやケアハウスに避難の協力が出来る体制が整っています。	年2回の避難訓練は昼・夜間をそれぞれ想定して実施。母体特養が訓練を実施する際は、ホーム職員も参加。災害に関する外部研修や法人主催の研修への参加、災害の新聞記事を話題に挙げて職員の意識を喚起する等、職員指導が熱心に行われている。スプリンクラーや火災報知機、緊急通報装置を設置し、非常時は近隣の併設事業所から、迅速な応援が得られる体制も作られている。	地域で、防災クラブ設立の計画が進んでおり、ホームも参加する意向を示している。今後、防災面でも地域への貢献が大いに期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを心掛け、尊厳を持って言葉掛けや対応などプライドを損なわないように、ご利用者の気持ちをそのまま受け入れるようにしています。「できることがいつまでも継続できる様に」「ご本人の出来るところを発見できる様に」と、ご利用者の自立を尊重した関りができる様に努めています。またご入居者のプライバシーを守るため、排泄や入浴時は個別の対応をし、職員にも定期的にプライバシーに関する勉強会を行っています。	日常のエピソードから気がかりな出来事を取り上げ、利用者の誇りや自立心を損なわない対応方法を、全員で検討する機会を持っている。収集癖のある人や、自分で直しこんでは置き場所が分からなくなる人等への声掛け等、早めにさりげなくカバーしていく方法を、利用者一人一人の特徴に合わせた対応となっていた。親しみのある優しい言葉使いや、入居者のペースに合わせた穏やかな介助の様子が見られ、利用者尊重の意識が浸透していることが感じ取れた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中では入浴際などで洋服の準備を一緒に行い、自分で選んで頂くなど、自分で決める場面を多く作っています。また、希望に対してはその時に叶えることを目標にし、自分で伝えられない方にはじっくり関ること、ご家族の方に協力を得て思い知ります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で食事の準備・片付け・洗濯たみ・縫い物を手伝う方、部屋でのんびりする方と出来る限り一人ひとりのペースを守る支援を心掛けています。行事やイベントの際は、職員のペースにならないに、職員配置を多くして対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室を利用してご本人の希望の髪型にしてもらったり、洗面台に櫛や化粧水を準備して自分でセット出来る環境を作っています。また、爪切りやマニキュア塗りも行い、ご本人にも喜んでもらっています。他にも、ご家族からご本人に似合う服を準備してもらい、家の中での行事や外出の時は一緒に服を選びおしゃれを楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁物は自分達で作っています。時には得意なだご汁を作ったり、準備や片付けも職員と一緒にしています。また、自分達で作った野菜やご近所から頂いた新鮮な野菜を調理、梅干しや漬物も作り食事を楽しんでいます。おやつ時も手作りで芋や団子を使い、一緒に楽しみながら取り組んで頂いています。	食事は母体特養で一括調理されているが、入居者の嗜好を聴き取りながら、汁物や小鉢類をホームで作れ、メニューに添えている。園庭での野菜作りは種まきから収穫まで、入居者の力が活かされている。梅干し作りやおやつ作り、配膳・下膳に茶碗洗いと、入居者の活躍の場が多様にあり、生き生きと活躍される姿が見られた。中庭でのお好み焼き会や、ジャガイモパーティ、納豆パーティ等、ユニークな企画もあり、行事日はホームの手作り料理を、居室で家族水入らずで楽しむなど、様々な工夫が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の管理栄養士が栄養を考えた献立になっています。午前・午後とお茶の時間を作り仲間と一緒にお茶を楽しんでいます。季節によってはアイスクリームやゼリーなど水分が摂れるように工夫しています。量についてはチェック表で確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけの方・見守りの方・介助が必要な方と、個々の力に応じてケアを行っています。口臭もなく食事の摂取は良好です。ケアの際に義歯の状態を把握しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員一人で介助したり、二人で介助したりと個々の力に応じてトイレでの排泄ケアを行っています。移動状況や殿部を摩って刺激したり、水の音を聞かせたり個々の特徴を踏まえ、オムツに頼らないトイレでの気持ちよい排泄ができる様に支援しています。	一人ひとりの排泄パターンに沿った声掛けを行い、トイレでの排泄に努めている。居室毎にトイレが設置され、夜間も声掛けしてトイレでの排泄を促している。パンツタイプの紙おむつと尿取りパッドを使用している人もいますが、トイレには不向きなオープンタイプのおむつは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤で排便をコントロールしているご入居者が2名おられます。服薬管理は職員が行っています。下剤以外にも水分の管理やヨーグルト・果物・繊維の多い食材を使った食事を工夫しています。また、運動にも心がけている。腹圧がかかりやすく、また、排便が出やすい姿勢(座位)での排泄を促しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日お風呂を準備しています。1日おきの入浴を目安にしているが、希望があれば入浴の日でなくてもご利用者の希望を叶えています。1日入浴デイや菖蒲湯・柚子湯・さくらの香りや温泉の素を使用して入浴を楽しむ工夫をしています。	通常の浴室とは別に檜風呂の浴室を設置し、時折檜風呂の入浴を楽しんでもらっている。雨の日など1日中屋内で過ごす日は「1日入浴デー」と名付けて、ゆっくり、のんびりした入浴が可能で、気分転換を図っている。入浴を嫌がる人には、時間を置いて声を掛けたり「一番風呂ですよ」などと言葉を工夫し、また、寒い時期は脱衣所を温めて服を脱ぐ気分を高めたりと、無理強いせず気分よく入浴してもらうように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自分の部屋でゆっくりする方は見守り、自分で上手く休息を訴えられない入居者の方には、身体の状態を把握して(座位姿勢などで)休息の時間を作ったりと、個々の状態に応じたケアを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容についてはファイルを作り内容が把握しやすいようにしています。内服の管理は職員が行い、与薬前には名前の確認をしています。袋を渡せば飲む方、手渡しするかた、口まで運ぶ方、と個々の力に応じた支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・食事の準備・片付け・洗濯たたみなどご入居者が出来る事は無理強いせずに見守っています。職員はご入居者の頑張り、「ありがとう」の言葉を掛け、生活の張りに繋がればと感じています。また、誕生会や季節の行事などを通じ、生活の中で楽しみの支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩やお地藏さん参りなど外出の機会をつくりまわりの景色や季節を感じてもらっています。外出行事の花見や紅葉見学などはボランティアの方のご支援を頂き行っています。また、地域の祭りやコンサートの情報を集めて出掛けています。	日常の散歩や地藏さん詣りの他、買い物や美容室、墓参り等、入居者個々の希望に沿った外出支援が行われている。併設事業所の行事に参加することも多く、餅つき大会や演奏会等、地域のイベントに参加する機会が多く作られている。賑やかな雰囲気の外出や、静かな雰囲気の外出など、多様な外出の機会が用意され、入居者はそれぞれに好みの場所に外出している。尚、外出にはボランティアの協力を依頼し、安全に楽しむことができる配慮も見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者の中には小銭を自分で管理されている方もいます。自分で管理できない方でもご家族の方からの預かり金で買い物を楽しんでもらい、自分でお金を支払ったりしてお金を使う支援をしています。ご家族やご本人は定期的に使用したお金の用途を確認して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中お見舞い・年賀状などは、一緒にハガキを準備して家族に送っている。字を書く事が苦手なご入居者にも手作りでスタンプを準備してご本人に関わってもらっています。ご家族や親類、友人からの電話が見られる。ご本人に代わると会話を喜ばれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者と一緒に台所に立っても混雑しないほどスペースが確保出来ています。リビングには、カレンダーボードで日付、曜日が分かるように、また、季節が分かる写真を飾ったりしています。居間はコタツを準備していつでも寝転がったりと皆様に寛げるようにしています。	潇洒な建物の中は、季節感が漂う明るいリビング、続き間の和室には大きな炬燵が置かれ、ゆったりと過ごせるスペースとなっている。広いオープンキッチンでは、昼食の準備を手伝う入居者の姿が見られた。多目的に使える予備の部屋や相談室も作られて、贅沢な間取りになっている。大きなガラス窓からは阿蘇の山並みや金峰山が見渡せ、開放的な雰囲気漂っている。廊下にもエアコンが設置され、ブックコーナーの他、数か所に用意された椅子・テーブルで、快適に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の間にセミパブリックスペースが設けてあり、気の合った仲間と話したり出来ます。時々、仲間同士で話しをされています。その際は職員が付き添っています。スペースに本や季節の飾り物を置き自然と集まりやすい工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力で使い慣れた家具(タンス・ドレッサー・炬燵・テレビなど)や布団・生活用品を準備して頂いています。実際にコタツに足を伸ばし新聞を読んだり、寝転がって寛いでいる場面が見られます。今後も居心地よく過ごして頂ける工夫をします。	ベッドは備え付けだが、筆筒や鏡台、テレビ、椅子、テーブル等が持ち込まれ、和室には炬燵、棚には人形があり、家族写真に囲まれた部屋など、居室毎に個性ある部屋作りが行われていた。炬燵の上には、新聞が開いていたり、編みかけの毛糸が置いてあったりと、居室でくつろいでいる様子が感じ取れた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の中にトイレと洗面所を設置して場所が分かりやすいようになっています。精神的に混乱がある場合は夜間、電気をつけて場所を分かりやすく工夫するなど、自分でトイレを利用できる様にしている。色々な場面で自立に向けて考えています。		